

小学校教材

児童の言語能力を高めるための教材研究

— 説明文「木の冬ごし」の教材研究を中心に —

教科教育部 太 田 勝 弘

1. はじめに

昭和52年7月、新指導要領が告示された。国語科における改訂の基本方針としては、

- (1) 内容を基本的事項に精選すること。
- (2) 言語の教育としての立場を一層明確にすること。
- (3) 表現力を高めるようにすること。

以上、三つのことがあげられている。

そして、昭和55年3月までの移行期間中は、改訂の趣旨を十分生かして指導することになっている。

ところで、改訂の基本方針でいっている「言語の教育としての立場を一層明確にする」とはどのようなことなのだろうか。

それは、これまでの国語科教育は、教材のもつ思想内容、意味内容をとらえさせることにかたより、言語を通して思考し、理解させるという国語科本来の指導が手薄であった。だから、国語科は言語能力を高めるための教科であるという立場に立って指導に力を入れなければならないということである。

それでは、言語能力を高めるためにはどのように教材研究をすればよいのだろうか。ここでは、説明文「木の

冬ごし」東書（3年下）の教材研究を中心に考えてみたい。

2. 教材研究

(1) 教材研究の手順

① 文章の研究

ア 文段区分、各段落の「中心文」「中心語句」などをおさえて文章構造図を書く。

イ 意味構造図を書いて文意をとらえる。

② 指導事項の研究

ア 内容的価値をとらえる。……………（価値目標）

イ 学習すべき技能をとらえる……………（技能目標）

ウ 学習すべき言語事項をとらえる。

③ 指導過程の研究

ア 学習計画をたてる。

イ 1時間ごとの指導過程を作成する。

(2) 説明文「木の冬ごし」の教材研究

（ここでは、①文章の研究と②指導事項の研究について述べることにする。）

木の冬ごし

- (一) ①つめたい風がふいている寒い冬です。②夏のころ、おおおとしていた野原や道ばたの草は、かれてしまっています。③ヒメジヨオン、オオマツヨイグサのような草だけが、日当たりのよい所で、地面にはうように葉を広げています。
- (二) ④サクラやイチヨウなどの木は、葉が落ちて、かれてしまっているように見えます。⑤マツやツバキなどの木は、夏のころとかかわらないで、緑の葉をつけています。
- (三) ⑥サクラやイチヨウは、ほんとうにかれてしまったのでしょうか。⑦いいえ、かれてはいないのです。⑧それは、えだをおろうとしても、ねばり強く曲がり、すぐにはおれないことから分かります。
- (四) ⑨サクラのえだを注意して見てみましょう。⑩サクラのえだには、細長いめや、ややまるい形をしためがついています。⑪細長いめは、葉やえだになるめで、まるいめは、花になるめで。⑫これらのめは、冬になってできたものではありません。⑬夏のころに育ち始めたもので、冬の間も少しずつ育っています。⑭一日に一度ぐらい、めを取って中をみてみましょう。⑮たてにま二つに切ると、めの育つ様子が分かります。⑯サクラだけでなく、葉の落ちた木には、冬の間も少しずつ育つめがついています。
- (五) ⑰冬の間も、木のめがかれないで育っていくためには、めから水分がなくなるようにしたり、また、めがおらないようにしたりしなければなりません。⑱そのために、木々は、いろいろな方ほうで風や寒さをふせいでいます。